

ミニ白菜 めんこいの栽培(関東)

(株)渡辺採種場

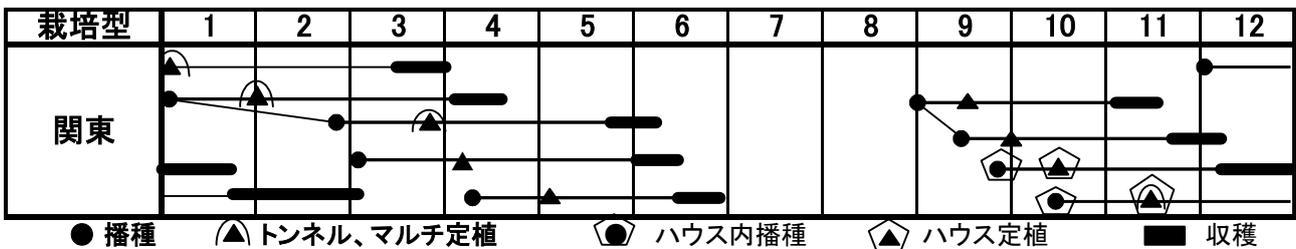
白菜の特性

- ・白菜は株の大小に関係なく、平均気温12℃以下で7日以上遭うと花芽が分化し、その後の長日と高温で抽苔してきます。低温期の育苗は平均気温15℃以上で本葉8枚位まで育苗して下さい。
- ・白菜は基本的に湿害に弱い作物です。排水良好な圃場に作付けしましょう。

1.播種～育苗のポイント

…発芽揃いまでは高温と乾燥に注意しましょう。

適作型



①春栽培について

ハウス内で温床トンネルまたは無加温トンネル(播種時期により選択)により育苗し、平均気温で15℃以下にならないよう、気温13～25℃で管理します。

目安として 本葉7～8枚 まで育苗する。
 育苗日数35～40日位 「桜(ソメイヨシノ)」の開花を目安に直播可能です。

②秋冬栽培について

一般に、その地域の標準とされる作型から、やや遅い作型にかけて適します。

早まき栽培では、元肥チッ素量を1～2割減らし、病虫害の予防・防除の徹底に努めて下さい。

③秋まきハウス栽培について(芯腐れ症対策として灌水チューブは必ず設置して下さい。)

最低気温が5℃以下になる11月中旬頃から、凍害防止と生育促進のためパオパオ等の不織布べたがけや不織布トンネル被覆を励行して下さい。育苗についても平均気温15℃以上で育苗して下さい。

2.圃場の準備

…CR品種ではありません。根こぶ病の汚染圃場では注意が必要です。

- 排水良好な圃場を選び、明渠や暗渠といった排水対策を必ず施して下さい。

※湿害による根傷み = 各種障害の原因です。

- 石灰や堆肥、化成肥料などの元肥は定植の20日位前に施し、肥料分の分解を促進させておきます。
- 微量元素欠乏対策として、「BMようりん」「硼酸塩肥料48」等を施用すると良いでしょう。
- 元肥の標準施肥例(10a当たり)

| | |
|----------|---------|
| 完熟堆肥 | 1～2t |
| 苦土石灰 | 100kg |
| CDU S555 | 100kg |
| 粒状BMようりん | 20kg |
| 硼酸塩肥料48 | 1～1.5kg |

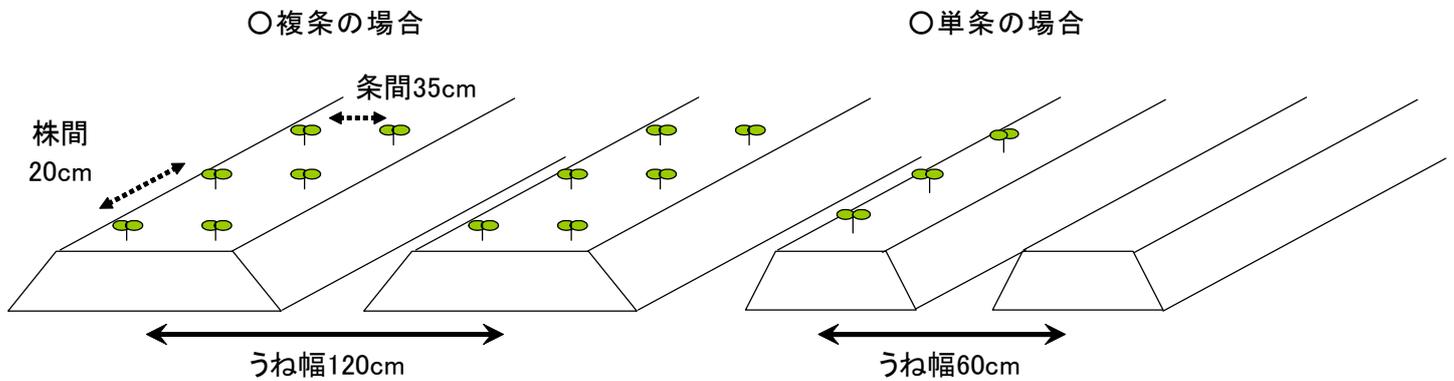
秋の早穫り栽培… 施肥量を1～2割減とする。

3.栽植本数

ミニ白菜は密植が原則です。

単条:うね幅 60cm、株間20cm (約8400株/10a)

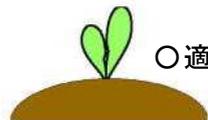
複条:うね幅120cm、株間20cm・条間35cm (約8400株/10a)



4.追肥・中耕 …作付後10日～2週間頃から様子を見て行ってください。

- 追肥は1回当たりチッ素成分で4～5kg/10a程度を施します。
- 中耕は表土を膨軟にして通気性を良くし、根の伸長を促すと同時に追肥の効果を高め、雑草の防除にもなります。

中耕のタイミングは →



○適



×遅い

根や葉を傷めます。

5.作付後の管理

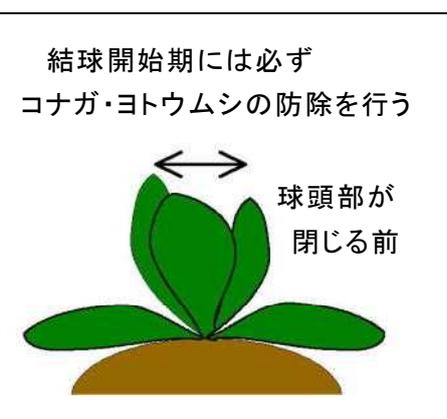
- 直播の場合、本葉2～3枚の頃に間引きを行いましょう。
- 播種後、または定植後に圃場を見回り、欠株があれば補植して下さい。
※補植用の苗を予め作ると良いでしょう。密植しないと大球になります。

6.生理障害対策

- ゴマ症…主に多肥と、穫り遅れによる過熟により発生するので極端な多肥は避け、適期収穫を心がけましょう。
- Ca欠乏症(芯腐れ症、縁腐れ症)
…主に乾燥と多肥により発生します。また、湿害による根傷みも原因となります。
硫酸カルシウム資材(畑のカルシウム)の元肥施用や結球開始期にカルシウム剤の葉面散布を行うことで発生を抑制することが出来ます。

7.病虫害対策

- 播種後～生育初期:ネキリムシ、アブラムシ類 等
軟腐病、べと病 等
- 結球開始期:コナガ、ヨトウムシ類、アブラムシ類 等
べと病、白斑病、黒斑病 等
- 結球後期～収穫期 :コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類 等
べと病、菌核病、軟腐病 等



■病虫害は大発生してからの防除は困難です。

適切な時期に効果的な薬剤で、予防的に防除して下さい。

8.収穫

ミニ白菜は基本的に早生品種です。その為収穫期の幅が短く、穫り遅れによる過結球や品質の低下が多く見られます。8分結球程度からの収穫開始を徹底しましょう。

- ◆白菜栽培はいかにして広く深く、「健全な根を張らせるか」が最大のポイントです。
・根圏を確保するための土作りを行いましょう(有機質肥料の投入、過湿・過乾燥対策等)!!